



瀬田の丘

創刊 1973 年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



今日のみことば

四旬節第 5 主日 B 年 (2024 年 3 月 17 日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：エレミヤ書 31 章 31 — 34 節

第二朗読：ヘブライ人への手紙 5 章 7 — 9 節

福音朗読：ヨハネによる福音書 12 章 20 — 33 節

イエスさまの栄光

三つの朗読から

第一朗読

見よ、わたしがイスラエルの家、ユダの家と新しい契約^{けいやく}を結ぶ^{むす}日が来る、と主は言われる。
(エレ 31 章 13 節)

シナイ山でモーセを通じて結ばれた契約^{やぶ}を破ったのは人間の側^{がわ}でした。それに対して神^{かか}は罰^{ばつ}を下さずに、神の方がもう一度「新しい契約」を結び、途切れることのない神との関わり^{しる}の道が備えられました。この「新しさ」とは律法によるものではなく、心に書き記されるという仕方での契約です (エレ 31 章 33 節)。

そのとき、人々^{りんじん}は隣人どうし、兄弟どうし、「主を知れ」と言って教えることはない。彼らはすべて、小さい者も大きい者もわたしを知るからである、と主は言われる。(エレ 31 章 34 節)

洗礼によって、そしてキリスト者として日々、信仰を生きることで、わたしたちは主を「知っています」。知るとは主イエス・キリストとの関わりの中に生きることです。

第二朗読

そして、完全な者となられたので、御自分に従順であるすべての人々に対して、永遠の救いの源となりました。(ヘブ 5 章 9 節)

イエスさまは、祭司として犠牲をささげる者となったという点と、自らが犠牲そのものとなったという二つの意味で完全な者となりました。わたしたちキリスト者もまた、祈りや奉仕をささげるものであり、同時にささげものそのものとなるのです。

福音朗読

イエスはこうお答えになった。「人の子が栄光を受ける時が来た。(ヨハ 12 章 23 節)

イエスさまの「時」とは十字架上で自分を犠牲としておささげする時です。それは、自分を棄てて神に栄光を帰する時でもあります。

十字架上のみじめな姿こそが、イエスさまの栄光の姿なのです。十字架の中に神さまを見いだせたらよいですね。



来週(3月24日)、
「受難の主日」のミサは7時と9時半です。
9時半のミサはアントニオ会館の庭から始まります。